

宗像市市民参画等推進審議会会議録（審議会資料）

日 時	平成28年8月29日（月）13:00～15:00
場 所	宗像市役所 202会議
委 員	*■出席 □欠席（五十音順、敬称略） ■ 井上豊久 ■ 木村健次 ■ 志岐宏美 ■ 中里留美子 ■ 東博子 ■ 松永年生 ■ 南博 ■ 毛利拓也 ■ 山下恵美子 ■ 吉田晴希
事務局	コミュニティ協働推進課；中野、井口、中脇、神 元気な島づくり課；原、武丸 むなかた市民フォーラム；雪松、入江

1. はじめに

- ①審査の進め方について確認
- ②新規事業について、事務局の事前調整の報告、参考資料の配布

2. 個別審査

（●審査員、⇒ 申請団体、◇市関連部署）

1、赤間サポート隊 （市関連部署；コミュニティ協働推進課）

団体から、提案内容について説明

●確認ですが、赤馬館の1周年祭や赤間宿まつりは、赤間地区コミュニティ運営協議会の単独事業ではないですね。

⇒はい、いろいろな地区に関わっていただいています。全体調整は赤間地区コミュニティ運営協議会で行っていますが。

●1次募集の審査の時には、申請額が261,000円でしたが、今回は163,000円となっています。変更点の説明をお願いします。

⇒1次募集の時は、半袖のジャケットのようなものの購入を検討していましたが、文化祭が開催される秋口は非常に暑い日もあるという会員さんの声もありまして、腕章の購入というかたちに内容が変わっております。

●費用弁償も700円から500円に変更されていますね。Tシャツとジャンパーではなく、腕章でいくということですか。

⇒はい、腕章と名札でスタッフを識別していこうと考えています。

●今後も本事業を継続していくということですが、この補助金を受けられなくなった後は、どうする予定ですか。

⇒寄付金などを考えています。大道芸祭りなどのサポートに関しては、商工観光課などと協議しています。

● こういうサポート隊を作る事は賛成ですが、市の補助金で最初から立ち上げていくという事にちょっと疑問を感じます。自分の考えとしては、立上げから赤間コミュニティが関わるべきではないかなと。補助金を受けることができる期間が最長3年なら、3年間終わった後にどうするかという問題を含め、コミュニティの中で考えていくことじゃないかなと私は考えます。

⇒ コミュニティ運営協議会の中でも考えていくべき事であろうと思っています。資金の内容につきましては、かなり詰めていかないと、委員がおっしゃるように、大きな3つのお祭りを継続していくというのは非常に難しくなっていくと思います。サポート隊は、あくまでボランティアとして、コミュニティの役員などのOBとなった方々の活動場所、特に高齢者の活動の場として、いろいろな面で地域に役立てられたらと思っています。まだ、自分たちも何か応援していきたいと気持ちがあるのに、活動の場がないというのもさみしい事です。サポート隊自体の活動経費は、費用弁償程度で、それほどかからないのではないかなという風に考えております。

● コミュニティ運営協議会において、役員が終わった人たちをどういう風に組織の中に入れていくかといった話はなされているのでしょうか。

⇒ コミュニティの事務局員の仕事がどんどん増えてきているということが、現実的にありまして、そこを何とか軽減していかなければという議論がコミュニティにおいてもなされております。役員のOBなどがコミュニティの応援隊として何とかやっていけないだろうかという流れの中からサポート隊の活動が始まっていました。

● 今回で2年目だと思いますが、3年間の事業終了後、コミュニティ運営協議会とよく打ち合わせをされて、コミュニティ運営協議会が予算的な措置をしていくべきだろうと考えます。

⇒ 補助金交付の終了後、予算をどうしていけばよいかは、十分に検討したいと思います。

● このサポート隊というのは是非必要だと私も思っていますので、ぜひそうしてほしいと思います。

● 細かい話になりますが、予算の旅費の項目に予算額 96,000 円と記されていますが、補助対象経費の欄は 21,000 円となっています。この差について説明をお願いします。

⇒ 私、コミュニティの職員なのですが、サポート隊のお世話の担当をしていますので、今の質問に関する説明をさせていただきます。補助対象経費が 21,000 円になっているのは、今年はサポート隊の世話人の分だけを補助対象額として計上しました。実際は、もう少しかかりますが、世話人の分だけとしました。

2、地島小学校 PTA

市関連部署；商工観光課

団体から、提案内容について説明

● これまで色々されていたものを更にいい方向にということは非常にいいことだと思いますし、少人数の生徒に対して、先生方も手厚い指導が出来るということを聞いております。

地島という非常に限られた地域の中で生活している子どもたちが、玄海中学校や玄海小学校に行かれて交流をすることで、子供たちも変わっていくと思います。子どもたちは将来的には島外に出ていくと思いますが、その準備につながるような活動は何か検討されていますか。
⇒学校全体での取組みとはなっていないのですが、社会教育センターの事業に参加したりするような子どもたちが出てきています。今後は、いろいろな県や市の事業などに子どもたちを参加させたいと考えています。

●予算書について3件質問です。文化祭や文化祭学習発表会というのは学校行事ですので、学校においても予算があると思うのですが、この元気な島づくり事業で申請される予算とはどのように区別されていますか。運動会のダンス指導は外部から専門家を呼ばれて行うということで、とてもいいことだと思うのですが、この元気な島づくり事業申請に伴い、新しくこのようにされたのですか。椿まつりが、コミュニティ、地島の地域全体の非常に大きな行事ですので、それなりの予算を計上していると思うのですが、負担の割合がどうなっているのかをおしえてください。

⇒文化祭については、地島では子どもだけでなく、地域の方も実際に参加されます。例年、プログラムの約半分が子どもたちの発表で、もう半分が地域のいろんな団体の方の発表ということで、計画をしているようです。ご指摘のとおり学校に関わる部分は、市からの教育予算も使います。地域の方が関わる部分の経費ということ事で計上させていただいています。
⇒運動会のダンス指導については、昨年までは、1～2回来ていただいてちょっとしたお礼程度で済ませていたというところがあるようです。駐車場代、渡船代もかかりますので、今年度は、講師としてきちんとお招きして支払いができればと考えています。

⇒椿まつりに関するチラシやパンフレットの印刷費用が、これまで、学校の教育予算から支出されていたようなので今回計上させていただいています。

●この補助金申請のことを玄海地区コミュニティの会長や事務局長は知っていますか。

このような補助金申請がなされてきた時に気になるのは、補助金の交付が終了した時にその後どうするかということ。自分はこういった事業に取り組むことは非常に素晴らしいと思っているのですが、補助金が受けられなくなった後、その先をどう考えているのか。だから、玄海地区コミュニティの会長や事務局長と話をされて、この補助金が終わった後は、玄海地区コミュニティでバックアップしてもらうような話を事前にしておいてほしいと思います。

⇒コミュニティの方にもお願いをしてやっていこうと思います。

◇元気な島づくり係からちょっと補足させていただきます。玄海地区コミュニティの会長と事務局長にこの申請がなされている事は伝えております。補助金の交付が終わった後に同じ規模の事業が継続できるかなどについては、いろいろ検討していかなくてはいけない課題も多いかと思っています。どうすれば維持できるかなど、今後模索していきたいと考えております。

●今回のこの申請の1番狙いとしているところは、今までの取組をもっと発展させたい、もっと充実させたいという事だと思いますが、主役を子どもたちにするというくらいの気持ちでやった方がいいと思います。

●地島の子どもたちが、市の子ども祭りへ参加していろいろと交流を深めたらいいのではと

思うのですが、そのための予算計上などは検討できないでしょうか。

⇒島外の行事にも参加できるように考えていきたいと思います。

●島づくり事業補助金は最長５年間あるので、計画的に少しずつ島外の体験活動などを盛り込んでいただければと思います。

～休憩～

３．個別事業検討

４．その他

（１）市民サービス協働化提案制度のスケジュールについて

事務局より平成２９年度開始コースのスケジュールについて説明

＝ 散 会 ＝